

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼぶり庄内緑地教室		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高いABA(応用行動分析学)のプログラムに基づく個別セラピーが受けられること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ABAの中でも特に効果が高いとされるDTT(不連続試行指導法)の訓練を受けたセラピストが楽しく、かつ、集中的に働きかけることでお子さまの持っている力を引き出します。 ・ 法人代表による事業所内研修を隔月行い、基礎的な内容から海外の研究についてなどの幅広い知識とセラピー実技指導による質の向上に取り組んでいます。 ・ SV(スーパーバイザー)が各利用者のプログラムや支援方法について日頃からアドバイスをし、セラピーにも同席するなどスーパーバイズを行なっています。 ・ 標準化されたアセスメントツールである「つみきBOOK」を指針として、課題の定期的な見直しをしています。 ・ 法人として、ABAに精通した医師や大学等との連携、ABAの国内共通資格試験の受験や臨床研究を推奨しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SVが同席できる頻度を高め、より質の高いセラピーが提供できるように検討していきたいです。 ・ 内部の研修だけでなく外部の研修にも積極的に参加していきたいです。 ・ 社内研修の内容について、ABAに限らず支援全般に活かすことのできるような内容を目指し、充実を図りたいです。
2	保護者様とセラピストが力を合わせるセラピーを取り入れていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に同席又はモニターを通してお子さまの療育の様子を見ていただくことで、保護者様とセラピストが共通理解を持って統一された対応をとることができるため、お子さまの成長が促進されます。 ・ 療育の前と後に保護者様とお話をする時間を毎回設けているので、ご家庭や園生活など様々なことについて、いつでもご相談にのることができます。 ・ 一般住宅を事業所として使用しているため、ご家庭に近い雰囲気の中で療育を提供することができ、ご家庭での般化がスムーズになります。 ・ ABAに基づいた保護者様への支援(助言、ペアレントトレーニング、研修)を行っているため、保護者様も日常的な関わりにおいてABAを実践することができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活への般化を目指し、やり方を助言するだけでなく、多くの保護者様に実践的に学んでいただける機会をさらに設けていきたいです。
3	担当制のセラピーのため、お子さまや保護者と信頼関係を築きながら、お子さまの様子をしっかりと把握して適切な課題設定ができること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に1人(または2人)のセラピストが担当し1年間を通してセラピーを実施するため、しっかりと信頼関係の元でお子さまの様子を保護者様と共有し、適切な課題設定を行っています。 ・ 保護者様との親密な信頼関係を築くことで1年を通しての切れ目のない支援をさせていただくことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主となる担当セラピスト以外にも、日頃から複数のセラピストが関わりながら、チームとして様々な視点を持ってよりよい療育を提供したり、お子さまにとって般化の機会を設けたりできるように取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流や研修の機会が少ないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開所2年目となり、初年度よりもイベントや研修など交流の機会を設けてきたが、曜日や時間帯の制約によって参加が難しい保護者様も多くいらっしゃったため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曜日や時間帯等も検討し、より多くの保護者様が参加して、交流や研修の場として保護者様の支援ができるように努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
2	バリアフリーに対応しきれていないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・一軒家であることから、階段等の構造がお子さま向けの高さになっていないため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的に改善可能な箇所はできる限りの対応を行ってまいります。 ・改善が難しい階段等の危険な箇所や使いにくい箇所については、職員全員で対応も含めて共有し、常に意識してまいります。 ・保護者様へも、改善した点や物理的に改善が難しい点の対応方法を周知して、安心感を持って通所していただけるように努めます。
3	お子さま同士、また、担当以外のセラピストとの関わりを持つ機会が少ないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別療育をベースとしているため。 ・2025年度からは、午後の枠は個別療育に加えて「般化と関わりの時間」といった小集団プログラムを実施したが、時間帯や時間の長さなどが限定的となったため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「般化と関わりの時間」といった小集団プログラムを実施して様々な大人やお友達と関わり、社会性を育む機会を積極的に設けていきます。 ・イベント等の実施により、さらにお友達と関わる機会を増やしていきます。 ・小集団の時間以外にも、担当以外のセラピストと療育を行う機会を設けて、様々な大人との関わりに慣れていけるように努めてまいります。 ・地域や地域の子どもたちなど、様々な関わりの中で成長できるように機会を設けることを検討していきます。